



2022年11月号

No.222

# ウトナイ湖通信

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 発行

## トピックス

### 10月15日・16日 ウトナイ湖・渡り鳥フェスティバルを開催しました

シベリア方面から南下する途中にウトナイ湖に立ち寄るハクチョウ類やガン類が見られる時期に合わせ、標記のイベントを開催し、日本野鳥の会のレンジャーや当センターのボランティアがガイドしました。

#### セミナー 渡り鳥とプラスチック問題 ～身近にできる自然保護～

4名の講師による、海鳥への海洋プラスチックの影響、国内のゴミの現状、水鳥にからまるテグスや釣り針の問題や海岸清掃活動、ゼロゴミシティ苫小牧市のゴミを減らすための取り組みなど、盛りだくさんの内容でした。会場は28名、オンラインは10名に参加いただき「プラスチックのリサイクル率が低いことを知れた」等の感想をいただきました。



#### 野鳥識別アプリを使った渡り鳥ウォッチング

湖岸で水鳥の観察を行ない、オジロワシに驚き飛び立つマガンなどが見られました。18名が参加されました。参加者にはタブレットをお貸しして、野鳥識別アプリ Merlin を体験いただき「使いやすい」と好評でした。最後は今回確認した野鳥を、eBird Japan に投稿しました。



#### 秋の生きもの図鑑を作ろう

参加者25名にはガイドスタッフの案内のもと、秋の生きもの図鑑に載っている生きものを探していただきました。コナラとミズナラのどんぐりや、湖岸でマガンやダイサギなどの水鳥を探しました。「色々な鳥や植物が見られてとても楽しかった」等の感想をいただきました。



#### お気軽水鳥ガイドウォーク

予約不要、軽装でも参加できるお気軽な観察会には23名が参加され、中には小さいお子さんも参加されていましたが、マガンやコハクチョウの群れが近くに見られ、望遠鏡で嘴の色などを元に野鳥の名前を当てることもできました。



#### マガンのカウント体験コーナー

毎年好評のこのコーナー。野鳥を数える数取器を使って2階のマガンの描かれたボードに何羽いるか数える体験です。初級、中級までは数えられても100羽近い上級コースが難しいと感想をいただきました。2日間で106人の方に参加いただき、参加賞で当センターオリジナルのしおりをお渡ししました。



**ウトナイ湖全域水鳥カウント調査 日記** 2022年10月9日(日)15:00~16:00

レンジャー、ウトナイ湖サンクチュアリサポーター、当センター登録ボランティアの計 5 名で実施し 18 種 1409 羽を確認しました。1000 羽ほどのマガンやヒシクイの群れ、100 羽ほどのコハクチョウの群れやカイツブリ、ダイサギなどを記録しました。オスが非繁殖羽で茶褐色になっているマガモ、ヒドリガモ、オナガガモなども識別しました。秋の渡りで水鳥が多く数えるのが大変でした。



湖に見られる水鳥を探し、調査用紙に記録した。



湖東側で確認されたカンムリカイツブリ。



マガンはキャハハんと甲高い声で賑やかに鳴いていた。



全域で8羽見られたダイサギ。首を伸ばし、魚を探していた。

**自然情報収集調査 日記** 2022年10月20日(木)10:00~11:30

レンジャーと当センター登録ボランティアの計 3 名で実施しました。湖中央部にガン類やハクチョウ類の群れが見られ、林ではヒヨドリ、ハシブトガラ、シジュウカラが見られました。昆虫が少なくなるこの季節ですが、コナラ、ミズナラ、ツルウメモドキ、キハダ、ケヤマウコギ等の実が多く見られ、野鳥やエゾリスなどのエサ資源が多くあると感じました。



モミジの葉を観察し、ヤマモミジであることを確認。



湖中央部ではオオハクチョウとマガンの群れが見られた。



陽のあたる木道の上で休んでいたノシメトンボ



ヤマモミジは紅葉している葉も、まだ緑色の葉もあった。

11月の自然予報

**秋の木々には、様々な実があります♪**

昆虫が少なくなるこれからの季節を乗り越えるために、野鳥や哺乳類の貴重なエサ資源となるのが植物の実です。ウトナイ湖の生きものたちに、人気の実をご紹介します。

**ケヤマウコギ**



オタルマップ川近くに生えています。紺色の実が集まりサッカーボールのように見えます。ハシブトガラなどの野鳥に加えて、シマリスが食べていたこともある人気の実です。



シマリス



ハシブトガラ

**ツルウメモドキ**



黄色い外皮が割れて出てきた赤い実が特徴です。木道脇のズミの木に巻き付いていることが多いです。ヒヨドリや、冬鳥のツグミなどが食べにきていることがあります。



ツグミ



ヒヨドリ

**ヤマウルシ**



ハスカップの小径などの林に見られます。コゲラやシジュウカラなどが、実を食べにきていることがあります。かぶれることがあるので、触らないようにお気をつけください。



ゴジュウカラ



コゲラ

【ツグミ】

全長 24cm。雌雄ほぼ同色。

シベリア方面から、日本全国に冬鳥として渡ってくる。クィクィ、キュッキューと鳴く。ウトナイ湖では木道脇や林に生えているツルウメモドキの実を目当てに数羽で来ていることが多い。また苫小牧市内の街路樹のナナカマドに大群で来ることがある。



\*ウトナイ湖に関するクイズ

毎回、その月にあわせたテーマで出題しています。あなたもウトナイ博士になれる？かも。

Q. 秋も深まり、これから寒くなるというのに、自然観察路で小さなイトトンボを見かけることがあります。このトンボの名前は？



- (あ)冬眠蜻蛉 (トウミントンボ)
- (い)越年蜻蛉 (オツネントンボ)
- (う)樹洞蜻蛉 (ジュドウトンボ)



答えは最後のページです。

傷病鳥獣ルームから



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺（苫小牧市行政区域内）において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端を皆さんに知っていただくコーナーとして、ここでご紹介いたします。

アカエリヒレアシシギ

原因：衝突事故疑い

体重 25 g



足のゆびにヒレ状の水かきがある



9月2日

市内を流れる川で、飛べずにいたところを市民により発見され保護センターへ搬入。



衝突事故をおこしたのか、左翼の先端が下がっていた。レントゲン検査では明らかな骨折は認めなかったが、打撲症として一晩経過観察を行った。この間、自発採餌は認めなかった。体重維持のために強制給餌を試みたいところではあったが、本種は給餌が困難な種であるため、体力消耗を防ぐために早急にリリースとした。

9月3日

リリース

アカエリヒレアシシギ (チドリ目 シギ科)

全長 18 cm。雌雄ほぼ同色ですが、鳥類では珍しく、雄よりも雌の方が、羽色が鮮やかで、体も大きいです。今回保護した個体は、まだ幼鳥のため、雄か雌かは不明でしたが、幼鳥に特徴的な眼から頬にかけて横長の黒斑がはっきりと確認できました。旅鳥ですが、主に春の渡りの時期に多く見られると言われます。

## お気軽ガイドウォーク in ウトナイ湖

11月13日(日) 10:30~11:30

※雨天時は、館内ガイドウォークに変更します。

レンジャーや当センターのボランティアが40分程、  
屋外でウトナイ湖の自然を案内する無料のガイドウォークです。  
(原則毎月、第2日曜日に開催予定です)

対象:どなたでも(小学生以下保護者同伴) / 参加費:無料  
定員:先着10名程度 ※できる限り皆さまをご案内させていただきますので、お気軽に参加ください。  
事前申込:なし。直接野生鳥獣保護センターへ



## ボランティア体験 講座 11月20日(日) 9:30~12:00

～ボランティア活動について&ウトナイ湖の秋の水鳥カウント調査体験～

前半は、当センターや登録ボランティアの活動の説明を行います。  
後半は、ボランティア活動のひとつ「水鳥カウント調査」を体験いただきます。  
湖岸からハクチョウ類やカモ類が観察できる見込みです。調査が初めての方にも、分かりやすくお伝えしますので、ぜひお気軽にご参加ください。

対象:高校生以上 / 参加費:無料 / 定員:10名(先着順)  
申し込み:11月1日(火)9時 ~ 19日(土)17時まで。電話で当センターまたは直接窓口へ



## バックヤードツアー 11月26日(土) 11:00~11:40

通常は一般公開をしていない救護室やリハビリケージなどを、  
当センターの獣医師がご案内します。

対象:どなたでも(小学生以下保護者同伴)/参加費:無料/定員:10名(先着順)  
申し込み:11月1日(火)9時 ~ 25日(金)17時まで  
電話で当センターまたは直接窓口へ



## 市民ギャラリー

### 苫小牧の水鳥絵画展 日時:11月8日(火)~11月27日(日)

主催:苫小牧市環境生活課 内容:苫小牧市民が描いたハクチョウなどの水鳥の絵の展示です。



#### ◆ウトナイ湖◆

周囲約9km、面積約275ha、平均水深約0.6mの淡水湖です。鳥類はこれまでに約270種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。このためウトナイ湖は、国指定鳥獣保護区特別保護地区、ラムサール条約湿地、東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワークに指定、登録されています。

#### ◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆

環境省が「野生鳥獣との共生環境整備事業」により建設し  
苫小牧市と共同管理する施設です。また、苫小牧市が業務  
の一部を(公財)日本野鳥の会に委託しています。

TEL. 0144-58-2231 / FAX. 0144-51-8600

〒059-1365 苫小牧市植苗156-26 / 入館無料 / 開館時間:午前9時~午後5時

答え:(い)越年蜻蛉(オツネトンボ)

このトンボは成虫で越冬します。冬は樹皮の下などに入りますが、時折どこから入ってきたのか建物の中で見つかることもあります。オツネトンボ以外にも、テントウムシやクジャクチョウなども成虫で越冬します。

公式 SNS にて  
情報を発信しています。ぜひ、ご覧ください。



Instagram



facebook



Twitter

